

## 諸外国における外国語教育の実施状況調査結果（概要）

調査項目		外国語としての英語教育（EFL）の実施状況					第二言語としての英語教育（ESL）の実施状況			日本
		中国	韓国	台湾	ドイツ （ニーダーザクセン州）	フランス	シンガポール	インド	カナダ （ケベック州）	
初等教育段階における外国語教育の導入時期		2001（平成13）年	1997（平成9）年	2001（平成13）年	2004（平成16）年	2005（平成17）年	1970年代からは基本的に全教科の授業を英語で実施	1830年代～（英国植民地時代）	1977（昭和52）年～	2011（平成23）年
外国語教育の開始学年		小学校第3学年	小学校第3学年	小学校第3学年 ※導入当初は第5学年	小学校第3学年	小学校第1学年 （2008年から）	小学校第1学年～ （全授業を英語で実施）	全35州・連歩直轄領のうち 26州・連邦直轄領で第1学年～ 9州・連邦直轄領で第3ないし4学年～ （この9州でも2～3年以内に第1学年から開始する見込）	第1学年～ ※州によって就学前教育でも実施	第5学年～
各学校段階における外国語教育の授業時数	小学校	週4回以上 ・3～4年は短時間授業（30分）がメイン ・5～6年は短時間授業と長時間授業（40分）の混合、長時間授業は週2回以上	○2008年改訂 ・3～4年は週2コマ ・5～6年は週3コマ ※1コマ40分 年間34週 ○改訂前（2007年以前）は ・3～4年は週1コマ ・5～6年は週2コマ	・週2コマ ※1コマ40分	・週2コマ ※第5学年以降は中等教育	・年間54時間 ※第6学年以降は中等教育 ※1コマ45分	北京語、マレー語、タミール語以外の授業は、すべて英語で行われているため、これらの授業以外の合計が英語授業の時間数として換算される。	・1日30分 ※1日の授業時間は6時間	・週5コマ ※1コマ60分	・週1コマ （年間35時間） ※1コマ45分
	中学校	週4回以上	・1～2年は週3コマ ・3年は週4コマ ※1コマ45分、年間34週	・週4コマ ※1コマ45分	・週4コマ ※第5学年～第10学年	・1年は週4コマ ・2年は週3コマ ・3～4年は週6コマ、うち3コマは第二外国語 ※1コマ55分		・1日45分 ※1日の授業時間は6時間	・週5コマ ※1コマ50分	・週4コマ （年間140時間） ※1コマ50分
	高等学校	週4回以上	・1年は週4コマ ・2～3年は選択科目単位制 ※1コマ50分、年間34週	・週5コマ （必修4、選択1） ※1コマ50分	・週4コマ ※第11学年～第12学年	・1年は3コマ+α（第二・第三外国語） ・2年以降は学科による ※1コマ55分		・1日45分 ※1日の授業時間は8時間	・週5コマ ※1コマ50分	・必修科目は3単位時間 ・他は選択科目 ※1コマ50分
各学校段階における外国語教育の目標		○単純な知識の伝授から全面的な素養向上へ ○コミュニケーション重視 ○一～九級の段階目標設定	○小学校 ・英語に対する興味・関心 ・日常生活で使用する基礎的な英語を理解し、表現する能力 ○中学校・高等学校 ・意思疎通能力の涵養 ・外国文化の受容と韓国文化の紹介	○小学校 ・間違いを恐れずに話す ○中学校 ・英語疎通能力の基礎を固める ・学習動機と興味の向上 ・広い国際観の養成 ○高等学校 ・学習方法と論理的思考の育成 ・文化への理解 ・広い世界観の育成	○生徒が卒業後実際の仕事や生活で使う実用的な英語コミュニケーション能力（聞く・話す能力）の養成を最重要視 ○初等教育段階では、聞くことと話すこと中心 ○綴りや文法はコミュニケーションを助ける補助的な機能と位置付け	○「共通基礎知識技能」の一つに「一つ以上の現代外国語の習得」が掲げられた。 ○小学校： CEFRのA1レベル ○中学校： CEFRのB1レベル （第二外国語はA1レベル） ○高等学校： CEFRのB2レベル （第二外国語はB1レベル）	○効率的なコミュニケーション ○考える技能 ○情報コミュニケーション技術の使用	○施政効率と国家の発展を目指すもの ○「総合力」の重視	○移民のカナダ社会・文化への適応 ○知的な国民としての国家の生産活動への参加	○以下の3本柱の目標も下、各学校段階で児童・生徒の発達の段階及び習熟の程度に応じた目標を設定 ①言語や文化に対する理解 ②積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度 ③「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」に関する技能の総合的な育成

		外国語としての英語教育（EFL）の実施状況					第二言語としての英語教育（ESL）の実施状況			日本
国名	調査項目	中国	韓国	台湾	ドイツ (ニーダーザクセン州)	フランス	シンガポール	インド	カナダ (ケベック州)	日本
各学校段階における外国語教育の内容(例)	小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>○3～4年【一級】</li> <li>・ゲーム、体を動かす</li> <li>・簡単な英語の歌詞の朗読</li> <li>・簡単な物語の聞き取りや読解</li> <li>・アルファベットと単語の筆記</li> <li>○5～6年【二級】</li> <li>・簡単な挨拶、情報交換</li> <li>・簡単な対話、歌</li> <li>・簡単な物語の聞き取りや読解、語り</li> <li>・簡単な作文</li> <li>・異国の文化、習慣の理解を楽しむ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○聴解</li> <li>・英語の音とアクセント、リズム、イントネーションの識別</li> <li>・単語や慣用表現、簡単な言葉や対話の理解</li> <li>○会話</li> <li>・英語のアクセント、リズム、イントネーションに合わせて話す</li> <li>・日常的な慣用表現を用いて話す</li> <li>・電話の応対</li> <li>○読解</li> <li>・アルファベットの識別</li> <li>・音と綴りの関係の理解</li> <li>・単語の理解</li> <li>・簡単な文章の音読</li> <li>○作文(4年生から)</li> <li>・アルファベットの活字体</li> <li>・単語</li> <li>・1文の作文</li> <li>・簡単な誕生日カード等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○聞く</li> <li>・アルファベットの音の辨別</li> <li>・疑問文と平叙文の語調の聞き分け</li> <li>・簡単な日常会話の理解</li> <li>○話す</li> <li>・アルファベットの発音</li> <li>・簡単な自己紹介</li> <li>・歌唱や詩の朗読</li> <li>・基本的な挨拶</li> <li>○読む</li> <li>・アルファベットの識別</li> <li>・フォニックス</li> <li>・簡単な文の理解</li> <li>○書く</li> <li>・アルファベットの記述</li> <li>・自分の名前の記述</li> <li>・既習の用語や文の模倣</li> <li>・180程度の語彙</li> <li>○総合応用能力</li> <li>・オーラルで300語、ライティングで180語を用いて、簡単な日常コミュニケーションを行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○第3～4学年</li> <li>・聞くこと、視聴覚による理解、会話を重視</li> <li>・読解は重要視しない</li> <li>・書くことについては、書き取りまでで留め、創作は行わない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○口頭によるやり取りの理解、反応、話すこと</li> <li>・自己紹介、他者の紹介</li> <li>・挨拶・祝辞</li> <li>・日常単語の綴り</li> <li>○聞いて理解すること</li> <li>・日常的な単語やよく使われる表現の理解</li> <li>・適切な助けを得ながら物語の流れを理解</li> <li>○続けて話す</li> <li>・オーラルモデルの再生</li> <li>・既習モデルの類似表現の活用</li> <li>・朗読、短い話を語る</li> <li>○読むこと</li> <li>・手紙、葉書、電報</li> <li>・メニュー、買い物リスト</li> <li>○書くこと</li> <li>・挨拶、祝辞、葉書</li> <li>・買い物リスト</li> <li>○音素、リズム、イントネーション</li> <li>○日常生活や地理等の文化・語彙</li> <li>○動詞群、名詞群、文</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○聴解</li> <li>・能動的聴解及び理解に対する積極的態度</li> <li>・聴解及び理解スキルと方略</li> <li>○読解</li> <li>・読解及び理解のスキル方略、態度、行動</li> <li>・読書及び理解</li> <li>○発話</li> <li>・話し言葉の特徴</li> <li>・会話スキルと方略</li> <li>○作文</li> <li>・作文の仕組み</li> <li>・作文スキルと方略</li> <li>○文法</li> <li>・術語の仕様</li> <li>・単語、句、文</li> <li>○語彙</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○第1～2学年</li> <li>・会話や記述を通じた聴解力と読解力の育成</li> <li>・詩の朗読、歌、リズム</li> <li>・文字や単語の意味・構成、発音への親しみ</li> <li>・簡単な指示や要求、質問について、定型的表现を用いた回答</li> <li>・アルファベットの大文字・小文字の区別</li> <li>・簡単な単語や短い文章の読解、表現</li> <li>○第3～5学年</li> <li>・会話力と読み書き能力の連動</li> <li>・表題、パラグラフ、本文の要約</li> <li>・文脈や状況に応じた会話・作文</li> <li>・基本的な作文</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○スピーキング・リスニング</li> <li>・正しい文構造、文法、明確な発音による発話</li> <li>・英語のリズムやパターンの認識</li> <li>・言語以外の手段によるコミュニケーション</li> <li>○リーディング</li> <li>・全てのアルファベットや数の理解</li> <li>・未知の語句の解読</li> <li>・テキストの様式、機能、ジャンル、文学的要素の理解</li> <li>○ライティング・プレゼンテーション</li> <li>・全ての文字の筆記(筆記体を含む。)</li> <li>・音声との関連で規則語、不規則の語などを正しく書く</li> <li>・会話文の記述</li> <li>・サイドワード600語</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外国語の音声(聞くこと、話すこと)を用いた体験的な活動</li> <li>・自己紹介</li> <li>・歌・チャンツ</li> <li>・ゲーム等</li> <li>○日本や外国の言語や文化を理解するための体験的な活動</li> <li>・外国人との交流活動</li> <li>・外国の行事の体験等</li> <li>○アルファベットの大文字、小文字の視認・視写</li> </ul>
	中学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1年【三級】</li> <li>・身近な話題の文章と簡単な短い物語の聞き取り</li> <li>・身近な話題での情報交換</li> <li>・簡単な短い物語や資料の読解</li> <li>・簡単な作文</li> <li>・文化の差を意識</li> <li>○2年【四級】</li> <li>・日常的な状況での対話や簡単な物語の聞き取り</li> <li>・身近な生活の話題での簡単な情報・意見交換</li> <li>・短編の読解</li> <li>・メモや簡単な手紙の作成</li> <li>・文化の差に気付く</li> <li>○3年【五級】</li> <li>・教員が語る話題の聞き取り、討論に参加</li> <li>・第三者と情報交換し自分の意見を述べる</li> <li>・簡単な読み物等の読解</li> <li>・小作文の作成と推敲</li> <li>・文化差の理解・認識</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学年進行とともに身近な話題から一般的な話題へ内容の範囲を拡大</li> <li>○聴解</li> <li>・身近な内容や言葉の把握</li> <li>・主題や要旨、詳細、因果関係の理解</li> <li>・話者の態度の把握</li> <li>○会話</li> <li>・よく知っている話について自分の考えや感情を表現</li> <li>○読解</li> <li>・文章の意図、詳細、因果関係、文の雰囲気の把握</li> <li>・続く内容や結論の予測</li> <li>○作文</li> <li>・単語や語句を入れて文章を完成</li> <li>・自分や家族の紹介</li> <li>・簡単な手紙</li> <li>・日記や感想文</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○聞く</li> <li>・簡単な詩歌のリズムと音韻の識別</li> <li>・日常生活の会話や簡単な物語の理解</li> <li>○話す</li> <li>・簡単な英語による討論</li> <li>・簡単な英語による表現</li> <li>・人物、事柄、時間などによる質問と回答</li> <li>○読む</li> <li>・筆記体の理解</li> <li>・常用英語や図表の理解</li> <li>・教科書の文意の理解</li> <li>○書く</li> <li>・簡単な記入用紙や資料等への書き込み</li> <li>・簡単なグリーティングカードや手紙の作成</li> <li>○総合応用能力</li> <li>・オーラルで300語、ライティングで180語を用いて、簡単な日常コミュニケーションを行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○第5～6学年</li> <li>・聞く、視聴覚理解(公共アナウンス、短い対話等)</li> <li>・読解(私的な文章、公的な日常の文章、物語)</li> <li>・会話に参加(状況の短い描写、画像等)</li> <li>・書く(手紙、簡単な描写等)</li> <li>○第7～8学年</li> <li>・聞く、視聴覚理解(対話・ラジオ、歌等)</li> <li>・読解(第5～6学年と同様)</li> <li>・会話に参加(問題に焦点を当てた短い文章等)</li> <li>・関連性のあること、筋道立ったことを話す(架空の物語等)</li> <li>○第9～10学年</li> <li>・聞く、視聴覚理解(会話、講演等)</li> <li>・読解(長めの文章等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○口頭による理解</li> <li>・ルールや指示</li> <li>・日常生活でよく使われる表現、数字</li> <li>○連続した口頭での表現</li> <li>・紹介、描写、説明</li> <li>○口頭によるやり取り</li> <li>・社会コミュニケーション</li> <li>・情報検索</li> <li>・身近な話題の会話</li> <li>○書かれた者の理解</li> <li>・ルール・指示</li> <li>・書簡・郵便物</li> <li>・情報標識</li> <li>○筆記表現</li> <li>・書簡、肖像</li> <li>・簡単な描写</li> <li>○文化と語彙</li> <li>・日常生活</li> <li>・文化・歴史的遺産</li> <li>・地理</li> <li>○名詞群、動詞群、単文・複文</li> <li>○上昇調・下降調</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小学校の発展形</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○スピーキング・リスニング</li> <li>・ディベート</li> <li>・修辞法</li> <li>・ユーモアを交えた会話</li> <li>・創造的・批判的に考え話す</li> <li>・口頭で説明・論争する</li> <li>○リーディング</li> <li>・文学的な抽象化</li> <li>・擬人法</li> <li>・単語の語源の分析</li> <li>・文章内に歴史的・文化的要因を見出す</li> <li>・視覚的文章などを分析し評価する</li> <li>・作品の鑑賞</li> <li>○ライティング・プレゼンテーション</li> <li>・複主語を持つ文における主語と動詞の対応</li> <li>・二次的情報源からの情報の引用</li> <li>・文学的技法、視覚的技法、芸術的技法</li> <li>・考えの比較、統合、拡張</li> <li>・目的や読み手・聞き手に応じた形式</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○聞くこと</li> <li>・英語の音声的特徴の理解</li> <li>・聞き取り</li> <li>・質問・依頼への応答</li> <li>・まとまりのある英語の概要・要点の理解</li> <li>○話すこと</li> <li>・英語の音声的特徴の理解</li> <li>・発音</li> <li>・問答・意見交換・スピーチ</li> <li>○読むこと</li> <li>・文字(活字体)や符号の識別</li> <li>・黙読・音読</li> <li>・書き手の意向の理解・応答</li> <li>○書くこと</li> <li>・文字(活字体)や符号の筆記</li> <li>・文や文章の記述</li> <li>○言語材料</li> <li>・音声(発音、イントネーション等)</li> <li>・文字・符号</li> <li>・1200語の語彙</li> <li>・文法(文構造、動詞、代名詞、形容詞、副詞、時制、不定詞等)</li> <li>○発音と綴りの関係</li> </ul>	

		外国語としての英語教育（EFL）の実施状況					第二言語としての英語教育（ESL）の実施状況			日本
国名		中国	韓国	台湾	ドイツ (ニーダーザクセン州)	フランス	シンガポール	インド	カナダ (ケベック州)	
調査項目										
各学校段階における外国語教育の内容（例）	高等学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1年【六級】                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・口頭及び書面で示される文章の要点・観点の理解</li> <li>・自身の見解の表明</li> <li>・文章又は口頭で個人の経歴を説明</li> <li>・言語の裏にある文化的な背景を感じる</li> </ul> </li> <li>○2年【七級】                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの話題について情報交流、質問、意見表明等</li> <li>・読解学習用に改変された英語の文章や新聞の読解</li> <li>・通知状や招待状などの初歩的な実用英作文</li> <li>・文化の差を理解、異文化コミュニケーション意識</li> </ul> </li> <li>○3年【八級】                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語母語話者と自然に交流</li> <li>・会話や文章の内容について評論的な見解表明</li> <li>・連続した短い文章の作文</li> <li>・異国文化に対して尊重・包容の姿勢</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○聴解                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・主題や要旨、詳細などの把握</li> </ul> </li> <li>○会話                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・準備をして発表</li> <li>・文を読んで主題や要旨を話す</li> <li>・情報交換</li> </ul> </li> <li>○読解                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・事実と意見の区別</li> <li>・必要な情報の検索</li> <li>・要旨の把握</li> <li>・文の順序の把握</li> <li>・文の前後の把握</li> </ul> </li> <li>○作文                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・対話を聞いて重要な情報を書く</li> <li>・文を読んで要旨を書く</li> <li>・未来の計画を書く</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○聞く                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語の日常会話の理解</li> <li>・公共場所の放送内容の理解</li> <li>・映画やニュースの理解</li> </ul> </li> <li>○話す                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の物事の説明</li> <li>・教科書の内容の討論</li> <li>・日常生活の疎通</li> <li>・国内の風土や民情の簡単な紹介</li> </ul> </li> <li>○読む                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・短い物語の要点の理解</li> <li>・意味や内容の推測</li> <li>・書簡、物語等の理解</li> </ul> </li> <li>○書く                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単な中文英訳</li> <li>・簡単なメモ、書簡等の記述</li> </ul> </li> <li>○総合応用能力                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・短文、物語等の流暢な朗読</li> <li>・要旨の説明</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○第11学年                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・能力判定機関（第12学年）への準備期間</li> </ul> </li> <li>○第12学年                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・自習学習</li> <li>・グループ作業やプロジェクト指向の作業</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○聴解                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・歌・演劇の台本、映画</li> <li>・テレビ討論、ラジオ</li> </ul> </li> <li>○読解                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料等の理解・解釈</li> <li>・詩や演劇の台本</li> </ul> </li> <li>○話すこと                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・描写、感情表現</li> <li>・演劇の台本、筋書き</li> </ul> </li> <li>○書くこと                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・葉書、手紙、E-mail</li> <li>・自由作文、課題作文</li> </ul> </li> <li>○言語知識                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマ別の語彙</li> <li>・連語、派生語、専門用語</li> <li>・限定詞、形容詞、時制等</li> <li>・アクセント等の発音</li> <li>・言語の多様性</li> <li>・口語と筆記の違い</li> </ul> </li> <li>○文化・社会共生</li> </ul>	○中学校の発展形			<ul style="list-style-type: none"> <li>○聞くこと                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な題材の聞き取り・理解</li> </ul> </li> <li>○話すこと                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・スピーチ、プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート</li> </ul> </li> <li>○読むこと                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・速読、精読</li> <li>・様々な題材の読み取り・理解</li> </ul> </li> <li>○書くこと                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・まとまりの文章の記述</li> <li>・小論文</li> </ul> </li> <li>○言語材料                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・400～1800語の語彙</li> <li>・関係副詞、仮定法、分詞構文等</li> </ul> </li> </ul>
外国語教育における到達目標		○級ごとに技能項目・知識項目の指導目標・内容に関するガイドライン設定	○教育内容と同様	○教育内容と同様	○コア・カリキュラムで規定（コア・カリキュラムはCEFRに準拠）	○CEFRに準拠	○教育内容と同様	○各学校段階で、4技能別の到達目標を提示	○「教育システムにおけるESL」という形で総括してガイドラインが提示されているが、技能学習に関する指針は提示されていない。	○教育内容と同様（教育内容の定着）
外国語教育における教材		○検定教科書の他、様々な補助教材も使用	○小学校は国定教科書、中学校及び高等学校は検定教科書 ○市販の補助教材を使用	○検定教科書 ○様々な補助教材も使われている（教育部審査）	○州当局による認定教科書 ○教科書会社による補助教材の活用が一般的	○国定・検定制度はなし ○教科書・補助教材とも一般の出版社が発行	○検定教科書	○国定教科書 ○補助教材の活用はあまりない	○国定・検定制度はない ○政府による「推奨教科書リスト」を指定 ○補助教材も、政府が「認定補助教材」や「推奨補助教材」を指定	○検定教科書 ○教科書の他、様々な補助教材も出回っている。 ○小学校外国語活動については教科ではないため、教科書が存在しないことから、国が教材を作成

調査項目	外国語としての英語教育（EFL）の実施状況					第二言語としての英語教育（ESL）の実施状況			日本
	中国	韓国	台湾	ドイツ (ニーダーザクセン州)	フランス	シンガポール	インド	カナダ (ケベック州)	
外国語教育を担当する教員	○小学校も含め専科教員 ○英語力に関する資格は特に規定されていない	○小学校は学級担任が多い ○中学校及び高等学校は専科教員 ○小学校では専門教員の配置が徐々に進んでいる ○英語力に関する資格は特に規定されていない	○中学校及び高等学校は専科教員 ○小学校では、都市部で専科教員が多く、非都市部では専科教員が比較的少ない。 ○台中市では小学校英語教の資格としてTOEFL CBT213点以上等が基準の1つ	○全ての学校段階において全教員が2教科以上を担当（「専科」や「学級担任」という概念はない） ○英語力に関する資格は特に規定されていない	○小学校は学級担任等、中学校及び高等学校は原則として専科教員又は英語アシスタント ○英語力に関する資格は特に規定されていない	○小学校は学級担任等、中学校及び高等学校は専科教員 ○国が行う「英語技量入学試験」の合格が必要 ○英語の学業レベルが優秀であるばあいは、「英語技量入学試験」を免除	○小学校は学級担任等、中学校及び高等学校は専科教員 ○英語力に関する資格は特に規定されていない	○小学校は学級担任等、中学校及び高等学校は専科教員 ○英語力に関する資格は特に規定されていない	○小学校は学級担任、中学校及び高等学校は専科教員 ○英語力に関する資格は特に規定されていない。 ○一部自治体では英語力に関する資格を採用の際に考慮することもある
外国語教育におけるネイティブ・スピーカー等の活用	○地域・学校によって導入状況にばらつき ○学校間交流により海外から派遣されてくる教員が、例えば、英語授業を週6回中1回担当するなどしている。給料は、派遣元の学校が負担。中国側から派遣する場合も同様。 ○ALT対象の研修は特に行われていない。	○小・中・高全てで活用 ○2009年現在で約8千人（うち、国事業によるALTは約900人） ○ALT対象の研修は各市・道教育庁が実施する場合が多い	○政府としてALTの活用を模索中 ○各学校の判断でALTを活用している ○一部、政府教育部で採用しているALTがいる（現地の教員資格が必要）	○当該州ではALT制度は存在しない	○政府としてのALT活用制度がある ○大学区の判断で20～30歳の外国人学生をアシスタントとして活用する場合あり ○その他、大学区の判断で在仏外国人や語学資格保有者に外国語教員認証を発行	○ALTの活用はない	○ALTの活用はない	○ALTの活用はない	○政府としてのALT活用制度（JETプログラム）がある ○その他、各自治体の判断で独自にALTを採用・活用 ○平成21（2009）年度現在で、JETプログラムによるALTは約4千人（自治体独自のALTの人数は不明）
児童生徒の外国語に関する能力の習得状況を評価する基準等	○区の統一的な試験はあるが参加は任意 ○統一的なデータは公表されていない	○学校ごとに試験等で評価する ○TOEIC、TOEFL等のテストも任意で行われる	○統一的な試験はない ○英語能力テストは、8種類ある	○学校での英語能力評価基準は統一修了試験のみ（コア・カリキュラムによる）	○CEFRによる ○統一的な試験はない ○統一的なデータも公表されていない	○各学校段階で卒業試験を実施 ○具体的な能力のデータは公表されていない	○統一的な試験はない ○統一的なデータも公表されていない	○各州で実施する統一テスト（高卒の判定）や政府公認の語学テストがある ○データは公表されていない	○統一的な試験はなし ○統一的なデータも把握していない
英語以外の外国語に関する教育の状況	○特殊な学校を除き、高校段階で選択科目として開講 ○日本語、フランス語、スペイン語等が盛ん	○高校段階で選択必修科目として開講 ○国が定める第二外国語として、中国語、フランス語、ドイツ語、日本語、スペイン語、ロシア語、アラビア語を規定 ○日本語、中国語、ドイツ語などが盛ん	○高校段階で選択必修科目として開講（週2単位） ○日本語、フランス語、ドイツ語などが盛ん ○国が定める第二外国語として、日本語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、その他を指定	○第6学年から第二外国語を導入（第一外国語と同じ授業時数） ○フランス語、スペイン語、ラテン語（古語）などが盛ん ○学校の種類別に第二外国語が異なる。	○英語教育と同条件（導入時期、開始学年等）で実施 ○小学校で8言語、中学校で16言語、高等学校で必修22言語/選択45言語から選べる	○高校卒業試験では、日本語、フランス語、ドイツ語の受験が認められており、これらの言語は開講されている ○履修の状況等は不明	○統一的な基準は設けられていないが、第二外国語学習は広がってきている ○フランス語、ドイツ語、スペイン語、日本語、ロシア語、韓国語、中国語などが盛ん	○初等中等教育段階では統一的に実施されていない ○ケベック州では、スペイン語、英語、中国語北京語、中国語広東語の人氣がある。	○各学校段階で、英語以外の外国語を開設することも可能 ○一部の高等学校や中学校では、第二外国語として英語以外の外国語を開講していることがある（多くの学校では選択科目） ○中国語、フランス語、ドイツ語、韓国語などが盛ん
その他	【直接教授法】 ○国内では広く普及しており、可能な限り直接教授法による授業を実施 ○指導要領等においては規定されていない 【イマージョン教育】 ○普及していない	【直接教授法】 ○政府は推奨しているが、学校では韓国語による授業が主流 ○指導要領においては規定されていない ○入試と合わないとの意見 【イマージョン教育】 ○普及していない	【直接教授法】 ○採用していない 【イマージョン教育】 ○実施していない	【直接教授法】 ○外国語教育の導入段階から直接教授法を用いている ○訳読式の授業も頻度は少なくなっているが残っている 【イマージョン教育】 ○自治体や学校によって違いはあるが、ギムナジウム等で採り入れている学校が存在	【直接教授法】 ○文法・訳読式教授法と直接教授法の中間的な教授法であるアクティブメソッドが普及 【イマージョン教育】 ○国際関係学科において一部実施	○第1学年より、北京語、マレー語、タミル語以外の授業はすべて英語で実施	○イマージョンプログラムは一部の学校で採り入れられているが、授業は基本的に英語、ヒンディー語と地域言語の3言語で行われる。 ○国は、母語、ヒンディー語、英語の三言語を習得させることを目標としている	○ケベック州ではカナダ国内で唯一フランス語が公用語として位置付けられている（他の州は英語） ○原則的には全ての学校段階で直接教授法を採用	【直接教授法】 ○新しい高等学校学習指導要領において、「授業は英語で行うことを基本とする」旨の規定を新設 【イマージョン教育】 ○一部の学校で、独自にイマージョン教育を行っているが、全国的に普及していない。